

日本心臓リハビリテーション学会 第8回四国支部地方会 開催

本年3月15日(土)～16日(日)の両日、日本心臓リハビリテーション学会第8回四国支部地方会を松山市総合コミュニティセンターで開催させて頂きました。心臓病の悪化のため入院が必要となった患者さんや心血管病の手術を受けられた患者さんの社会および日常生活へ復帰するためのプログラムとして、心臓リハビリテーションの役割を重要視してきました。一般にリハビリテーションといえば理学療法士による運動療法を思い浮かべる方が多いと思いますが、ご高齢の患者さんや重症心臓病の患者さんの社会復帰には、看護師・栄養士・薬剤師・医療ソーシャルワーカーも含めた他職種介入(包括的心臓リハビリテーション)が必要となります。高齢化を迎える現代において医療現場だけでなく社会における心臓リハビリテーションの重要性が高くなっています。

学会準備は大変でしたが、学会本部から後藤葉一元理事長や高橋哲也現副理事長を始め四国内外より指導的立場の先生方に参加頂きました。多くの医療スタッフに注目して頂くために漫画家(平尾リョウ氏)に依頼し愛媛県の明るいイメージの学会ポスター(写真1)をデザインして頂きました。お陰様で180余名の現地参加があり盛会にて終了することができました(写真2:当院スタッフとともに)。

初日のプログラム終了後は関係医療スタッフの情報交換を目的として松山市内のホテルで懇親会(写真3:医師 兼 社会人落語家の芸乃虎や志氏)を開かせて頂きました。



写真1

私は長らく心臓リハビリテーション領域の県内責任者を務めてきましたが、今年度より病院長就任が予定されていたため、今回の地方会開催が臨床医としての一区切りと捉えており感慨深い2日間となりました。

最後に当院の矢野理学療法士・間藤看護師の演題が当四国支部地方会において(最)優秀演題賞を3年連続で受賞したことを報告させて頂くとともに、日頃の臨床業務を検討・分析し医療に還元する姿勢を誇らしく思っています。当院心臓リハビリテーションチームのさらなる発展と地域医療への貢献を祈念しています。

院長 船田 淳一



写真2



写真3